



大地申  
第10号

## 2019年度「ライフサイクルの深度化」に基づく異動及び、復帰に関する申し入れ団体交渉開催！

12月17日、大宮地本は申第10号『2019年度「ライフサイクルの深度化」に基づく異動及び、復帰に関する申し入れの団体交渉を行いました。議論の中では、ジョブローテーション実施後も第13陣の仲間が施策の目的を達成させるための体制を求めました。また、異動対象箇所となる宇都宮駅・小金井駅・南浦和駅では、車内点検業務や遺失物取扱い業務等「ライフサイクルの深度化」施策を担う社員の主たる業務が委託されることによる課題についても議論しました。【議論要旨】

1. ライフサイクルの深度化に関する覚書（2008年3月締結）を遵守し、この間の議論経過に踏まえた運用を行なうこと。なお対象者に対し、施策の運用についての具体的な意見交換の場を継続して行うこと。

会社回答：「ライフサイクル」の深度化については、覚書等を踏まえ進めてきているところである。

組合：改めて覚書の遵守を求める。40歳までの運用が厳しい実態や、現場長が施策の目的を知らないなど様々な問題を労使議論で乗り越えてきた。

会社：今施策も13年を迎える。200名近くの方が担ってきていただき運輸のプロとして育ててきている。

組合：来年よりジョブローテーションが実施されるが、第13陣を担う皆さんはこれからが施策のスタートである。しっかり覚書に沿って運用していただきたい。

会社：第13陣についてもしっかりと覚書に則り進めていく。

**ライフサイクルの深度化に関する覚書に則り進めることを確認！**

組合：営業施策の提案を受けたが、ライフサイクルの深度化施策に大きく影響する。大きな変化点であり、しっかりと伝えるべき。

会社：駅によっては現行作業ダイヤに変更は生じるが、ライフサイクルの深度化施策の今後の運用に変化はない。

**営業施策の影響はあるものの、運用についての考え方に変更はない事を確認！**

組合：これまで、施策の対象者に意見交換会を開催している。継続して行うことを求める。

会社：今回も全駅実施した。30名くらいの方と意見交換を行ってきた。引き続き聞いていく。その都度職場と合わせながら実施していく。

組合：以前も議論しているが、意見交換で出された質問への返答がない。集約した声はどう取り扱っているか？

会社：意見交換後のヒヤリングを行っている。返せるものは現場長とやり取りしている。

組合：ライフサイクルとジョブローテーションのすみ分けをしっかりと行い、現場運用をお願いしたい。現場長も内容を理解していないと、施策の目的に沿ったものにならなくなる。

会社：「これは私の仕事ではない」といったすみ分けはしたくないが、覚書に外れた運用はしない。

組合：ライフサイクルの深度化施策の検証と総括をしっかりと行っていただきたい。

会社：了解。

**これまで積み上げてきた労使議論を確認し、覚書に則った運用と第13陣が施策の目的を達成できるまでの体制を確認しました！**